

学校法人明浄学院顧問（経営・学事）就任にあたって

山 本 健 慈

再建にあたられる関係諸氏の要請にお応えし、この度、学校法人明浄学院顧問（経営・学事）をお引き受けすることになりました。

さる9月5日の大阪観光大学教職員集会でも挨拶いたしました。改めてお引き受けするにあたって私の気持ちを、教職員のみなさんにお伝えしたいと思います。

私は、3月まで一般社団法人国立大学協会専務理事の任にあり東京にいましたが、本学の事情は、報道や私学関係者等の情報で知っておりました。私は、この30年余熊取町に住み（現在泉佐野市日根野）、過去本学とのご縁もありました。ただ、教職員・学生のみなさんの心情、いかばかりかと思ひ、心を痛めておりました。この間の厳しい状況の中で、本学の教育研究の事業の継続に尽力された教職員のみなさんに敬意を表したいと思います。

今後、教職員のみなさんとは対話を重ね、私の考えもお伝えしていきたいと思っておりますが、ここではお引き受けするにあたっての2つの理由を申し上げ、ご挨拶にかえさせていただきます。

ひとつは、私がかねてより、本学のような地方、それも小さな私学は、日本の高等教育において、またこの社会の持続的発展にとって重要だと思っていたからです。私は、人生の大半を国立大学に身を置いてきたわけではありますが、国立大学だけではなく国公私を超えた高等教育総体を考えることが重要だと思つてまいりました。

日本では、70%以上の青年が、大学・専門学校という高等教育機関に入り、社会に出ていくわけであり、ます。「勉強しない日本の大学生」などと、しばしば揶揄されておりますが、その学生達に対して、みなさんのような大学教職員が並々ならぬ奮闘をされ、彼らは社会人、市民として必要なことを学び、社会に出、日本社会の様々なシステムを支えているわけであり、ます。その意味で、本学のような地方の、小さな私立大学は、日本社会にとって不可欠な存在であるということであり、ます。しかし私立大学の運営経費は、ほとんど家族の費用負担で支えられており、日本社会全体で支えられており、ません。日本社会が、本学のような私立大学を社会的に承認していくこと、これは解決すべき喫緊の課題だと思つております。

なお私は、この大阪観光大学の名称変更前、大阪明浄大学の開学2年目の2001年、当時の大橋昭一学部長（のちに和歌山大学観光学部初代学部長）から依頼され、「教育学概論」と「生涯学習論」という2科目を担当した経験があります。その講義は、財政的理由で講義数を整理するという事になったようで、1年で終わりましたが、そこで

は和歌山大学では出会わないような学生たちに会い、私の大学教員としての姿勢の自己変革に導いてくれたということも併せて申し上げたいと思います。

もうひとつは、私は 1988 年に熊取町に移り住み、今日まで 30 余年にわたり熊取町が教育、福祉、文化豊かな街となる活動に、市民として参加し、また行政とも協働してまいりました。歴代の町長とは、大学の街・熊取についても語り合っただけでなく、無認可保育所時代から関与した保育所（現在は社会福法人アトム共同福祉会・アトム共同保育園、つばさ共同保育園）は、いまや全国に知られるものになっておりますし、設立準備段階から関与しました熊取図書館も、日本ではすぐれた図書館として知られております。地域と大学というテーマは、私自身の研究テーマでもありますが、それ以上に、熊取町、大阪泉州に本学が位置づくことによって、大学が地域を支え、地域に支えられる大学にできればと念願しております。

2つ申し上げましたが、保育所であれ、図書館であれ、大学であれ、それをいい組織へと創り出す最前線の力は、そこで働く教職員であります。

学生の現在（過去を含め）・未来を幸せにする大学のミッションを実現するためには、最前線で奮闘する大学教職員が幸せでなくてはなりません。私は、和歌山大学長時代、「和歌山大学は、生涯、あなたの人生を応援します」というスローガンでやってまいりました。条件が異なりますので、これまでの延長線上にできるとは思っておりませんが、これからも学生の人生、みなさん教職員の人生、そして地域のみなさんの人生が大学として応援できるように、管財人、支援者とともに法人経営の立場で尽力したいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。ご一緒にがんばりましょう。

2020 年 10 月 9 日